

実施学科課程表(2017～2023入学生)

専門基礎科目(経済学科・経営システム学科・地域システム学科) (令和7年度)

学 科 目	ペ ー ジ	授業科目	新授業科目	単 位	開 講 年	実 施 時 期	必修・選択 必修	レベル	受講可能年次	担当者	教員免許 該当科目
専 門 基 礎 科 目	1	経済学入門	サステナビリティのための経済学入門	2	7	前	◎	基礎	1年以上	石井・安永・宇野・小笠原・木村・柴田・高見・デイ・小野・海・村山・中本・非(高山)・非(久保)	公民
	2	初級ミクロ経済学	ミクロ経済学	2	7	後	○いずれか 1科目必修			林	公民
	3	初級政治経済学	初級政治経済学	2	7	前				海・田村	
	4	経営学入門	経営学入門	2	7	前	○いずれか 3科目必修			于・小宮山・仲本	商業
	5	会計学入門	会計学入門	2	7	前				山根・越智	商業
	6	法学入門	法学入門	2	7	後				亀岡・田代	公民
	7	地域学入門	地域学入門	2	7	後				包・高島・山浦・甲斐・宮町・城戸・美谷	公民
		イノベーション・マネジメント入門	※なし	2	不開講						

※◎は必修、○は選択必修である。

専門基礎科目(社会イノベーション学科)

学 科 目	ペ ー ジ	授業科目	新授業科目	単 位	開 講 年	実 施 時 期	必修・選択 必修	レベル	受講可能年次	担当者	教員免許 該当科目
専 門 基 礎 科 目	1	経済学入門	サステナビリティのための経済学入門	2	7	前	◎	基礎	1年以上	石井・安永・宇野・小笠原・木村・柴田・高見・デイ・小野・海・村山・中本・非(高山)・非(久保)	公民
	2	初級ミクロ経済学	ミクロ経済学	2	7	後	○いずれか 1科目必修			林	公民
	3	初級政治経済学	初級政治経済学	2	7	前				海・田村	
	4	経営学入門	経営学入門	2	7	前	○いずれか 1科目必修			于・小宮山・仲本	商業
	5	会計学入門	会計学入門	2	7	前				山根・越智	商業
	6	法学入門	法学入門	2	7	後	○いずれか 1科目必修			亀岡・田代	公民
	7	地域学入門	地域学入門	2	7	後				包・高島・山浦・甲斐・宮町・城戸・美谷	公民
			イノベーション・マネジメント入門	※なし	2	不開講				◎	

※◎は必修、○は選択必修である。

学部共通科目

学科目		授業科目	新授業科目	単位	開講年	実施時期	必修・選択 必修	レベル	受講可能年次	担当者	教員免許 該当科目
外国書講読		外国書講読	※なし	2	不開講		○いずれか 1科目必修	中級	2年以上		
ビジネス英語	8	ビジネス英語A	ビジネス英語	2	7	後		基礎	1年以上	ホワイト	
		ビジネス英語B	※なし	2	不開講			基礎	2年以上		
特別講義	9	海外フィールドワーク	※なし	2	7	前		応用	3年以上	木村	
		国際学生フォーラム	国際学生フォーラム	2	8*	前		中級	2年以上	小笠原・木村	
		国際ボランティア・ワークショップ	※なし	4	不開講			応用	3年以上		
	10	IBPプレゼンテーションセミナー	IBPプレゼンテーションセミナー	※	7	後		応用	3年以上	安永・小宮山・柴田・(非)	
		フィールドワーク入門	※なし	2	不開講			基礎	1年以上	(非)	
		農山漁村再生論	※なし	2	不開講			基礎	1年以上		
アドバンストセミナー		アドバンストセミナー	※なし	2	7	前・後		応用	3年以上	各担当教員	
インターンシップ	11	インターンシップ	インターンシップA・B	※	7	前・集中		応用	3年以上	インターンシップ実施委員会	
社会人講義等		四極会寄附講義 会社研究	※なし	2	不開講			中級	2年以上		
		大分銀行寄附講義 地域と経済	※なし	2	不開講			中級	2年以上		
	12	大分銀行・野村證券寄附講義 資本市場の役割と証券投資	※なし	2	7	後		中級	3年以上	非(金((珍)))	
	13	芙蓉リースグループ寄附講義 CSV経営実践論	※なし	2	7	後		中級	3年以上	松谷	
		大分県弁護士会連携講義 法律の基礎と実務	法律の基礎と実務	2	7	後		基礎	1年以上		
		連合大分寄附講義 働くということと労働組合	※なし	2	不開講			基礎	1年以上		
	後日	南九州税理士会寄附講義 租税の基礎と税理士の役割	※なし	2	7	前・集中		基礎	3年以上	非(坂本)	

※○は選択必修である。

※IBPプレゼンテーションセミナーの単位は、実施期間により2単位又は4単位となる。

※インターンシップの単位は、実施期間により1単位又は2単位となる。

※学部共通科目は、どの学科にも所屬しない専門教育科目の「選択」となる。

卒論・演習等

学 科 目		授 業 科 目	新 授 業 科 目	単 位	開 講 年	実 施 時 期	必 修 ・ 選 択 必 修	レ ベ ル	受 講 可 能 年 次	担 当 者	教 員 免 許 該 当 科 目
卒 論 ・ 演 習 等		中級セミナーⅠ	専門教育セミナーの中級Ⅰ	2	7	前	◎	中 級	2 年 以 上	各 担 当 教 員	
		中級セミナーⅡ・ サービス現場のフィールドワーク	専門教育セミナーの中級Ⅱ	2	7	後	◎				
		演習Ⅰ	演習Ⅰ	2	7	前	◎	応 用	3 年 以 上		
		演習Ⅱ	演習Ⅱ	2	7	後	◎				
		演習Ⅲ	演習Ⅲ	2	7	前	◎				
		演習Ⅳ	演習Ⅳ	2	7	後	◎				
		卒業論文	卒業論文・研究	6	7	通	◎				

※◎は必修である。

※演習の参加資格については、各自入学年度「履修の手引」を参照のこと。

※「レベル」について：1年次生は中級・応用の科目は履修できず、1・2年次生は応用の科目を履修できない。

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)		授業形式								
K511A101		サステナビリティのための経済学入門 (Introduction to Economics and Sustainability)					学部専門基礎科目 学部専門基礎科目		対面								
必修選択		単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語	担当形態								
必修		2	1, 2, 3, 4	経済学部	前期	木1	日本語	英語	複数(共同)、オムニバス、クラス分け								
担当教員	氏名 石井 まこと 他経済メジャーの教員 E-mail mak@oita-u.ac.jp 内線 7698																
授業の概要	経済学部すべての学生を対象として、高校「政治・経済」で学修した内容から、大学専門教育への橋渡しを目標とし、経済学部における学修の基礎となる経済学の考え方、及び経済理論の政策への応用などについて学びます。その上で、サステナビリティ(持続可能性)と経済学の関係について考えるテーマを毎回提示し、経済学的思考の基礎力を身につけます。																
具体的な到達目標								DP等の対応(別表参照)		1	2	3	4	5	6	7	
目標1	経済学の考え方を説明できる。							○									
目標2	経済理論の政策への応用例について説明できる。							○									
目標3	資本主義の特徴、国民所得と景気、市場の役割、金融・財政のしくみの基礎事項を説明できる。							○									
目標4	労働問題、社会保障、日本・世界経済の歩み、国際経済について基礎事項を説明できる。							○									
目標5	サステナビリティと経済学の関係について説明できる。							○									
目標6																	
目標7																	
目標8																	
目標9																	
目標10																	
各DPへの関連度(計10)								10									
授業の内容																	
1	経済学と社会・生活																
2	資本主義の一般的傾向																
3	市場経済のしくみ																
4	国民所得と景気																
5	経済統計の見方・考え方																
6	財政のしくみとはたらき																
7	金融のしくみとはたらき																
8	世界経済の歩み																
9	日本経済の歩み																
10	労働問題・社会保障制度のしくみ																
11	公害と環境保全																
12	国際貿易と世界経済																
13	地域主義の動き																
14	発展途上国と国際問題																
15	まとめ																
フィードバックシート	A:知識の定着・確認	☐ 講義時のレポート・試験を実施し、内容についての理解を深めてもらいます。					エ	そ									
	B:意見の表現・交換	☐					夫	の									
	C:応用志向																
	D:知識の活用・創造																
授業時間外学修の内容と想定時間	準備学修	高校「政治・経済」の教科書、またはそれと同等の内容の資料を事前に読んでおく(25h)。															
	事後学修	配布資料等を用いて講義内容を復習する(20h)。															
	想定時間合計	45															
教科書	教科書は使用しません。随時資料を配付します。																
参考書	高校「政治・経済」の教科書																
成績評価の方法及び評価割合	評価方法						割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	授業回ごとのテストまたはレポート						100%	○	○	○	○	○					
注意事項	講義中の私語・携帯電話は厳禁です。																
備考	内容については変更の可能性があります。また、受講生を2クラスに分けて同時刻に開講するため、クラスによって授業の内容の順序が若干異なることがあります。																
リンク																	
	URL																

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)			授業形式							
K521A201		ミクロ経済学 (Microeconomics)					学部専門基礎科目 学部専門基礎科目			対面							
必修選択		単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語		その他に使用する言語		担当形態						
選択		2	1,2,3,4	経済学部	後期	木3	日本語				単独						
担当教員	氏名 林 勇貴 E-mail yhayashi@oita-u.ac.jp 内線 7705																
授業の概要	現実に行っている様々な問題は「経済学」を用いて考えることができます。「現実」を理解し、分析するには、複雑な「現実」の世界を単純な「理論」の世界へ置き換える作業が必要です。このときに基礎的な理論となるのが、ミクロ経済学です。この講義では、ミクロ経済学の基本である消費者や企業の行動を理解することをねらいとします。																
具体的な到達目標									DP等の対応(別表参照)		1	2	3	4	5	6	7
目標1	市場という概念について具体的なイメージを形成できる。									○							
目標2	需要と供給の理論を理解し、様々な事象について説明ができる。									○							
目標3	価格や取引量の決定など、消費者や企業の行動を理論的に説明できる。									○							
目標4																	
目標5																	
目標6																	
目標7																	
目標8																	
目標9																	
目標10																	
各DPへの関連度(計10)										10							
授業の内容																	
1	イントロダクションーミクロ経済学とはー																
2	経済学の原則																
3	需要と供給(1)ー需要曲線ー																
4	需要と供給(2)ー供給曲線ー																
5	需要と供給(3)ー価格と取引量の決定ー																
6	まとめ																
7	価格弾力性																
8	消費者余剰																
9	生産者余剰																
10	需要と供給と政府の政策																
11	まとめ																
12	企業の行動(1)ー生産の費用ー																
13	企業の行動(2)ー利潤最大化行動ー																
14	消費者選択の理論																
15	まとめ																
ラーニング エッセ ンス グループ	A:知識の定着・確認		授業の最後にレポートや課題に取り組む時間を設ける。					工 そ 夫 の 他 の									
	B:意見の表現・交換																
	C:応用志向																
	D:知識の活用・創造																
授業時間外 学修の内容 と想定時間	準備学修		配付資料や参考文献等を必要に応じて予習する(15h)														
	事後学修		配付資料や参考文献等を用いて復習する(15h) 他の授業と本講義の関連について整理する(15h)														
	想定時間合計		45														
教科書	特になし																
参考書	N・グレゴリー・マンキュー(2019)『マンキュー経済学Ⅰ ミクロ編』、東洋経済新報社。																
成績評価 の方法 及び 評価 割合	評価方法						割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	定期試験						70%										
	小テスト・レポート等						30%										
注意事項																	
備考																	
リンク																	
	URL																

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)		授業形式						
K521A203		初級政治経済学 (Introduction to the Political Economy)					学部専門基礎科目 学部専門基礎科目		対面						
必修選択		単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語	担当形態						
選択必修		2	I	経	前期	木3	日本語		複数(共同)						
担当教員	氏名 海 大汎・田村 哲也 E-mail dbhae@oita-u.ac.jp / ttamura@oita-u.ac.jp 内線 7681 / 7706														
授業の概要	・テーマ：市場経済と資本主義 ・概要：本講義は、政治経済学の基礎知識を学修するものとして、市場経済と資本主義の違いおよび資本主義社会の特殊歴史性について理解を深めることを目的とする。														
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)		I	2	3	4	5	6	7
目標1	資本主義と市場経済の違いを説明できる。									○	○				
目標2	資本主義社会の特殊歴史性を理解できる。									○	○				
目標3	「政治経済学Ⅰ」及び「政治経済学Ⅱ」の学修に必要な基礎知識を身につける。									○	○	○			
目標4															
目標5															
目標6															
目標7															
目標8															
目標9															
目標10															
各DPへの関連度(計10)									3		3	3	I		
授業の内容															
1	〔前半クラス〕オリエンテーション														
2	資本主義の歴史(1)資本主義以前の経済システム														
3	資本主義の歴史(2)資本主義の成立														
4	資本主義の歴史(3)産業革命からフォーディズム														
5	資本主義について考えた思想家たち														
6	さまざまな国の資本主義														
7	グローバル資本主義														
8	資本主義の現在と未来														
9	〔後半クラス〕交換とは何か														
10	物々交換と商品交換														
11	共同体と市場														
12	モノと商品														
13	価値と価格														
14	労働力商品														
15	市場経済と資本主義														
フィードバックシート	A:知識の定着・確認	☐ ・小テストやQ&A、講読、演習課題を実施することで、授業内容について理解を深めてもらいます。					エ								
	B:意見の表現・交換	☐					そ								
	C:応用志向						夫								
	D:知識の活用・創造	☐					他								
授業時間外学修の内容と想定時間	準備学修	[15h] 次回の予定箇所を読み、分からないことや疑問点をまとめる。													
	事後学修	[30h] 講義の内容を参考にして自分の思考や問題意識を深める。													
	想定時間合計	45													
教科書	・講義資料を適宜配布します。														
参考書	・永谷清(著)『市場経済という妖怪ー『資本論』の挑戦と現代』(2013)社会評論社。・伊藤誠(著)『入門 資本主義経済』(2018)平凡社、・ユルゲン・コッカ(山井敏章訳)『資本主義の歴史一起源・拡大・現在』(2018)人文書院、・中谷武ほか『資本主義がわかる経済学』(2019)大月書店														
成績評価の方法及び評価割合	評価方法		割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10		
	毎回の事後課題		60%	○	○	○									
	中間レポート		40%	○	○	○									
注意事項	・欠席や遅刻は減点対象になります。														
備考															
リンク															
	URL														

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)		授業形式							
K52IA207		経営学入門 (Introduction to Management)					学部専門基礎科目 学部専門基礎科目		対面							
必修選択		単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語	担当形態							
選択必修		2	I	経済学部	前期	火3	日本語		複数(共同)、オムニバス、クラス分け							
担当教員	氏名 仲本 大輔・于 松平・小宮山 知成 E-mail daichan@oita-u.ac.jp (仲本)・yusongping@oita-u.ac.jp (于)・ @oita-u.ac.jp (小宮山) 内線 7714 (仲本)・7711 (于)・ (小宮山)															
授業の概要	初めて経営学を学ぶ学生の皆さんに対して、専門基礎科目の位置づけを意識して講義を行います。また、経営学の諸分野への橋渡しとしての役割を考慮して、幅広い講義内容を提供します。経営学の基礎知識を理解できるようにします。															
具体的な到達目標								DP等の対応(別表参照)		I	2	3	4	5	6	7
目標1	経営学の各分野における基礎的な専門用語の意味や原理を理解・説明できる。									○						
目標2	経営学の基礎的知識を理解し、説明できる。									○						
目標3	新聞・雑誌等の経営学用語を理解し、説明できる。									○						
目標4																
目標5																
目標6																
目標7																
目標8																
目標9																
目標10																
各DPへの関連度(計10)										10						
授業の内容																
1	A教室・B教室：イントロダクション(どちらか片方の教室に受講生全員を集めます)															
2	A教室・B教室：外部講師による講義、講演(どちらか片方の教室に受講生全員を集めます)															
3	A教室：イノベーションと経営①(担当：仲本) B教室：人的資源管理の基礎①(担当：于)															
4	A教室：イノベーションと経営②(担当：仲本) B教室：人的資源管理の基礎②(担当：于)															
5	A教室：イノベーションと経営③(担当：仲本) B教室：人的資源管理の基礎③(担当：于)															
6	A教室：人的資源管理の基礎①(担当：于) B教室：イノベーションと経営①(担当：仲本)															
7	A教室：人的資源管理の基礎②(担当：于) B教室：イノベーションと経営②(担当：仲本)															
8	A教室：人的資源管理の基礎③(担当：于) B教室：イノベーションと経営③(担当：仲本)															
9	A教室・B教室：中間試験															
10	A教室：企業の価値創造活動(担当：呉) B教室：経営戦略論の基礎①(担当：小宮山)															
11	A教室：モノづくり経営(担当：呉) B教室：経営戦略論の基礎②(担当：小宮山)															
12	A教室：価値づくり経営(担当：呉) B教室：経営戦略論の基礎③(担当：小宮山)															
13	A教室：経営戦略論の基礎①(担当：小宮山) B教室：企業の価値創造活動															
14	A教室：経営戦略論の基礎②(担当：小宮山) B教室：モノづくり経営															
15	A教室：経営戦略論の基礎③(担当：小宮山) B教室：価値づくり経営															
フィードバック	A:知識の定着・確認	○	授業で紹介する理論をよりイメージしやすくするため、企業経営に関するトピックを適宜紹介します。また、学生からの質問を受ける機会を設け、その内容についてフィードバックすることで、他の学生の意見を聞けるようにする予定です。				エ	講義資料等をMoodleに公開し、学習を促進します。なお、資料を印刷したものを配布することもあります。詳細は、各担当教員の初回講義にて説明があります。								
	B:意見の表現・交換						そ									
	C:応用志向	○					夫									
	D:知識の活用・創造	○					他									
授業時間外学修の内容と想定時間	準備学修	配付資料や参考文献等の情報を必要に応じて予習する(15h)。														
	事後学修	資料を用いて、講義の復習を行い(15h)、講義において紹介した経営学系の知識を実際の生活場面と関連させて捉える(15h)。														
	想定時間合計	45														
教科書	講義資料を配布します。															
参考書	講義の進捗度に応じて適宜紹介します。															
成績評価の方法及び評価割合	評価方法		割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10			
	中間試験 前半担当教員2名 各25%		50%	○	○	○										
	期末試験 後半担当教員2名 各25%		50%	○	○	○										
		中間試験、期末試験の両方を受験しなければ成績がつきません。また、毎出席をとります。3分の2以上出席しなければ試験の受験資格を失うことになります。なお、出席														
注意事項	私語等授業の進行の妨げになる学生の受講は認めません。															
備考																
リンク																
	URL															
担当教員の実務経験の有無	○															
教員の実務経験	エネルギー・自動車・金融産業による官民事業会社創設・運営の経験(小宮山)															

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)			授業形式								
K52IA204		会計学入門 (Introduction to Accounting)					学部専門基礎科目 学部専門基礎科目			対面								
必修選択		単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語		その他に使用する言語		担当形態							
選択必修		2	1, 2, 3, 4	経	前期	火2	日本語				クラス分け							
担当教員	氏名 越智 学・山根 陽一																	
	E-mail manabu.ochi@oita-u.ac.jp (越智)・y-yamane@oita-u.ac.jp (山根) 内線 7700 (越智)・7691 (山根)																	
授業の概要	会計は「ビジネスの言語」とよばれており、経済活動の中で、人々は会計情報を活用しながらコミュニケーションを図っています。そのため、基本的な会計用語の意味や会計情報の使い方は、所属するコースやメジャーを問わず、経済学部の学生全員が理解しておく必要があります。また、経済社会には会計を専門とする職業（税理士や公認会計士など）があります。それらの職業を目指す人にとっては、体系的な知識を基礎から積み上げていくことが重要です。この授業では、会計学の体系とその基礎知識を学ぶことにより、今後の専門知識の学び方や自らのキャリアを効果的にデザインできるようになることをねらいとしています。																	
具体的な到達目標										DP等の対応(別表参照)		1	2	3	4	5	6	7
目標1	会計の基本的な用語を、文脈に応じて適切に利用できる。										○	○						
目標2	小規模企業の簿記一巡の手続き（日商簿記検定初級レベル）を行うことができる。										○	○						
目標3	企業内部の経営者や企業外部の利害関係者の立場から、会計情報を使った初歩的な分析を行うことができる。										○	○						
目標4																		
目標5																		
目標6																		
目標7																		
目標8																		
目標9																		
目標10																		
各DPへの関連度（計10）										8	2							
授業の内容																		
1	イントロダクション：簿記・会計とは																	
2	簿記・会計の目的(1)：会計期間、貸借対照表																	
3	簿記・会計の目的(2)：損益計算書																	
4	会計報告書の作り方(1)：取引と勘定記入																	
5	会計報告書の作り方(2)：仕訳と転記																	
6	会計報告書の作り方(3)：商品売買①、現金・預金①																	
7	会計報告書の作り方(4)：現金・預金②・商品売買②																	
8	会計報告書の作り方(5)：商品売買③																	
9	会計報告書の作り方(6)：その他の資産・負債、主要簿と補助簿																	
10	会計報告書の作り方(7)：試算表の作り方、決算①																	
11	会計報告書の作り方(8)：決算②、財務諸表の作成																	
12	会計情報の使い方(1)：財務諸表の構造と入手方法																	
13	会計情報の使い方(2)：企業外部の利害関係者による財務諸表分析																	
14	会計情報の使い方(3)：企業内部の経営者による経営状況の分析																	
15	簿記・会計と職業（公認会計士の先生を招いた講演会を予定）																	
ライク ニテ ンイ グ	A:知識の定着・確認	☐ 講義中の穴埋め資料、授業中の練習問題（学生間の相談や教員への質問を含む）、 ☐ 授業後の復習課題（授業に対する質問・感想・要望の記入欄を含む）										エ そ 夫 の 他 の	公認会計士等の実務家を講師として招聘し、講義内講演会を実施する予定である。 実際の業務に関する講演を聞くことにより ，会計専門職に関する知識を習得するとともに、今後の学習意欲を高める。					
	B:意見の表現・交換																	
	C:応用志向																	
	D:知識の活用・創造																	
授業時間外 学修の内容 と想定時間	準備学修		配付資料や教科書等の情報を必要に応じて予習する（14h）。															
	事後学修		復習課題を解く（32h）。															
	想定時間合計		46															
教科書	桑原知之（2022）『日商簿記3級とおるテキスト（第3版）』ネットスクール出版。ISBN：9784781033112。（後期の「初級簿記」の教科書としても使用します。）																	
参考書	桑原知之（2022）『サクッとわかる日商3級商業簿記テキスト（第3版）』ネットスクール出版。ISBN：9784781013275。 滝澤ななみ（2025）『みんなが欲しかった！ 簿記の教科書 日商3級 商業簿記（第13版）』ネットスクール出版。ISBN：9784300115763。 桑原知之（2022）『合格するにはワケがある脳科学×仕訳集日商簿記3級【第4版】』ネットスクール出版。ISBN：9784781015415。																	
成績 評価 の 方 法 及 び 評 価 割 合	評価方法						割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10	
	提出課題						25%	○	○	○								
	期末試験						75%	○	○	○								
注意事項	第2回目以降は毎回、電卓を持参すること。情報基盤センターの学習支援システム「Moodle」を使って演習問題の解答・解説などを配布するので、User IDと Passwordを確認しておくこと（Webメール等と同じものです）。																	
備考	後期の「初級簿記」とは連動するため、併せて履修することが望ましい。																	
リンク																		
	URL																	

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)						区分・【新主題】/ (分野)			授業形式						
K521A205		法学入門 (Introduction to Juris prudence)						学部専門基礎科目 学部専門基礎科目			対面						
必修選択		単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語		その他に使用する言語		担当形態						
選択必修		2	1、2、3、4	経	後期	木1	日本語				オムニバス						
担当教員	氏名 田代 浩・亀岡鉦平 E-mail tashiro-hiroshi@oita-u.ac.jp・kkameoka@oita-u.ac.jp 内線 6752・7703																
授業の概要	法学関係の科目を学ぶための導入として、法学にどのようなヴァリエーションがあり、また法学にどのような特徴があるのか理解しつつ、公法・私法それぞれの分野の基礎的な事項について学ぶことをねらいとします。また個別には授業が開講されていない国際法・家族法・民事訴訟法についても触れる予定です。																
具体的な到達目標								DP等の対応(別表参照)		1	2	3	4	5	6	7	
目標1	個別法を学ぶにあたって必要な法学の基礎的知識を習得する。							○									
目標2	論理的な思考に基づいて意見を表明することができる。										○						
目標3	疑問を発見して、自分で解決することができる。										○						
目標4	法律に関する情報を調べることができる。							○									
目標5																	
目標6																	
目標7																	
目標8																	
目標9																	
目標10																	
各DPへの関連度 (計10)								5			5						
授業の内容																	
1	はじめに、法の機能、法の形式・分類・構造																
2	法の制定、法の適用と解釈																
3	法の担い手、法の適用機関																
4	憲法の基礎																
5	行政法の基礎																
6	刑事法（刑法・刑事訴訟法）の基礎																
7	国際法の基礎																
8	裁判員制度																
9	法と社会の歴史、近代における西洋法の継受																
10	民法（財産法）の基礎 1																
11	民法（財産法）の基礎 2																
12	民法（財産法）の基礎 3																
13	民法（家族法）の基礎																
14	労働法の基礎																
	民事訴訟法の基礎																
	A:知識の定着・確認		○		授業内容に関する参考文献を適宜紹介しますので、自主的な調べ学習と読書を通じて、授業内容の定着を図ってください。					エ そ 夫 の 他 の							
	B:意見の表現・交換																
	C:応用志向																
	D:知識の活用・創造																
授業時間外学修の内容と想定時間	準備学修		予習（教科書の通読、疑問点の発見）：15時間														
	事後学修		復習（疑問点の解消など）：30時間														
	想定時間合計		45														
教科書	教科書は、神野潔他編『法学概説』（弘文堂、2022年、ISBN 9784335358821）です。 また、六法も持参してください。指定はしませんが、『法学六法'26』（信山社）や『ポケット六法令和8年版 』（有斐閣）（いずれも2025年9月末頃発売予定）等が標準的です。 ※教科書販売期間中に購入して下さい。																
参考書	・高橋和之他編『法律学小辞典（第6版）』（有斐閣、2025年、ISBN 9784641000315） ・堀口悟郎他編『図録法学入門』（弘文堂、2024年、ISBN 9784335359613） ・道垣内弘人『リーガルベイス民法入門（第5版）』（日経BP、2024年、ISBN 9784296118397） ・横田明美他『法学学習Q&A』（有斐閣、2019年、ISBN 9784641126091）																
成績評価の方法及び評価割合	評価方法						割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	期末テスト（筆記）						100%	○	○	○	○						
注意事項																	
備考	両担当教員が内容を分担して講義します。したがって、クラスにより上記の授業内容の順番は異なります。「地域経営・法コース」のコース必修科目です。																
リンク																	
	URL																
担当教員の 実務経験の有無	○																
教員の実務経験	田代は、財務省・国税庁等の行政機関で20年程度の実務経験を有する。																

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)		授業形式										
K521A206		地域学入門 (Introduction to Regional Studies)					学部専門基礎科目 学部専門基礎科目		対面										
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語		その他に使用する言語		担当形態									
選択必修	2	I	経	後期	火3	日本語				オムニバス									
担当教員	氏名 宮町 良広・甲斐 智大・城戸 照子・高島 拓哉・包 聯群・美谷 薫・山浦 陽一 E-mail ymiya@oita-u.ac.jp (宮町), tkido@oita-u.ac.jp (城戸), tataka@oita-u.ac.jp (高島), blianqun@oita-u.ac.jp (包), mitani@oita-u.ac.jp (美谷), yamaur@oita-u.ac.jp (山浦) 内線 7684 (宮町), 7685 (甲斐), 7946 (城戸), 7678 (高島), 7724 (包), 7712 (美谷), 7688 (山浦)																		
授業の概要	経済・社会を学習・研究する際、「地域」という切り口はきわめて有効なものの1つである。本授業では、経済学部生が「地域」に関わる学習・研究を進める際に、基本として修得すべき知識や考え方、および学習方法について教授する。地域学に対する興味や関心をはぐくみ、「地域学はおもしろいな。自分もやってみよう」と受講生が思うようになることを目的とする。 各担当教員がリレー方式で講義を担当し、7人で合計15回の授業を行う。																		
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)					1	2	3	4	5	6	7	
目標1	地域の経済・社会・文化をとらえるための基本的考え方を理解し、説明できる。											○							
目標2	地域学のための基本的な手法やスキルを身につけ、レポート等で文章表現できる。												○						
目標3																			
目標4																			
目標5																			
目標6																			
目標7																			
目標8																			
目標9																			
目標10																			
各DPへの関連度 (計10)												5	5						
授業の内容																			
1	地域学は地域への好奇心から始まる (宮町担当)																		
2	地域学と地域活性化 (宮町担当)																		
3	多様な働き方と地域 (1) (甲斐担当)																		
4	多様な働き方と地域 (2) (甲斐担当)																		
5	地域における多文化共生 (1) (城戸担当)																		
6	地域における多文化共生 (2) (城戸担当)																		
7	地域社会における社会と空間 (1) (高島担当)																		
8	地域社会における社会と空間 (2) (高島担当)																		
9	地域における多言語景観と多言語サービス(1)(包担当)																		
10	地域における多言語景観と多言語サービス(2)(包担当)																		
11	大学で地域を調査・研究する視点と手法 (美谷担当)																		
12	地理学における地域理解の手法 (1) (美谷担当)																		
13	地理学における地域理解の手法 (2) (美谷担当)																		
14	地域としての農村 (1) (山浦担当)																		
15	地域としての農村 (2) (山浦担当)																		
フィードバック	A:知識の定着・確認 B:意見の表現・交換 C:応用志向 D:知識の活用・創造											○ 次の項目の中から担当者が授業方式に合わせて実施する。 ○ 質疑応答と全体共有、授業終了前のミニッツペーパー、アンケート		エ そ 夫 の 他 の		関連文献や参考Webサイトの情報提供による調べ学習			
授業時間外学修の内容と想定時間	準備学修		各担当者が指示する (資料読解など、計15h)。																
	事後学修		各担当者が指示する (レポート作成など、計30h)。																
	想定時間合計		45																
教科書	各担当者が指示する。各自でのプリントが必要な場合がある。																		
参考書	各担当者が指示する。																		
成績評価の方法及び評価割合	評価方法					割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10			
	レポート (3課題)					100%	○	○											
各担当者が示した7つのレポート課題のうちから、3つの課題を選ぶ。分量は1課題につき1000字程度とする。合計得点6割以上で合格。指定の表紙を利用し、使用し																			
注意事項	本授業は定刻開始、定刻終了します。受講生は授業開始前に着席してください。また途中退室を禁じます。																		
備考	担当者の順番は変わります。対面 (2教室に分割) で実施します。不明な点は気軽に質問してください。各担当者のオフィスアワーを活用してください。																		
リンク																			
	URL																		

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)			授業形式									
K531R304		ビジネス英語 (Business English)					メジャー専門科目 地域研究メジャー科目			対面									
必修選択		単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語		その他に使用する言語		担当形態								
選択		2	1年	経済学部	後期	月3	英語		日本語		単独								
担当教員	氏名 ホワイト クリス																		
	E-mail chris-white@oita-u.ac.jp 内線 6612																		
授業の概要	Through this introductory course, students will be introduced to a variety of business related material covering all four skills; reading, writing, listening and speaking. Student progress will be measured both with a number of TOEIC-style practice sections together with a variety of student-centered output tasks. Practical work skills such as creating a cover letter and resume will ultimately lead to participation in a mock business interview. This course is open to IBP students who have a TOEIC level of approximately 400-500+, enjoy practical speaking opportunities, and would benefit from having a fuller understanding of English as it is used in the work environment. Students are required to have a laptop computer to participate in class.																		
具体的な到達目標									DP等の対応(別表参照)				1	2	3	4	5	6	7
目標1	Develop a basic understanding of business vocabulary and etiquette								○	○		○		○					
目標2	Improve presentation skills								○	○		○		○					
目標3	Practice a variety of practical communicative skills and situations that are common to the workplace								○	○	○	○		○					
目標4	Practice essential test taking strategies for the TOEIC.								○	○									
目標5																			
目標6																			
目標7																			
目標8																			
目標9																			
目標10																			
各DPへの関連度 (計10)									3	3	1	1		2					
授業の内容																			
1	Orientation / Unit 1 - Talking about jobs / meetings (TOEIC homework)																		
2	Unit 1 - (TOEIC homework)																		
3	Unit 2 - Emails, scheduling, (TOEIC homework)																		
4	Unit 2 - (TOEIC homework)																		
5	Unit 3 - Travel, advice, (TOEIC homework)																		
6	Unit 3 - (TOEIC homework)																		
7	Unit 4 - Describing people & objects, opinions, (TOEIC homework)																		
8	Unit 4 - (TOEIC homework)																		
9	Unit 5 - Word groups, quantity, eating out, requests, (TOEIC homework)																		
10	Unit 5 - (TOEIC homework)																		
11	Unit Test																		
12	Project - drafting resumes																		
13	Project - drafting cover letters																		
14	Project - mock interview practice																		
15	Job interviews / Submission of final project																		
ラ イ フ ニ テ ン グ ブ	A:知識の定着・確認		○	Review exam, group discussion and presentations, LTD, peer response,					エ そ 夫 の 他 の	Listening practice, creating of presentation materials, use of technology (students require a laptop computer and will access Zoom in each class).									
	B:意見の表現・交換		○	role-play scenario learning, internet research															
	C:応用志向																		
	D:知識の活用・創造		○																
授業時間外 学修の内容 と想定時間	準備学修		TOEIC practice, (4 skills learning), listening (20h)																
	事後学修		Extensive reading, using TOEIC reference materials to study outside of class, presentation preparation and interview practice, resume preparation. (30h)																
	想定時間合計		50																
教科書		Students will be notified about the text on the first day of class.																	
参考書		Get that Job (BBC): http://www.bbc.co.uk/worldservice/learningenglish/business/getthatjob/ Talking Business (BBC): http://www.bbc.co.uk/worldservice/learningenglish/business/talkingbusiness/ ※Students should have the Oxford Business English Dictionary.																	
成 績 評 価 の 方 法 及 び 評 価 割 合	評価方法						割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10		
	Project / Job interview						30%	○	○		○								
	Unit test						30%	○											
	Moodle assignments						30%	○	○										
	Active participation						10%												
Students will be evaluated based on handing in a number of TOEIC-style online homework assignments via Moodle. Additionally, students will create a resume, cover																			
注意事項		-Students who are absent for more than 5 classes will automatically receive an F -This is a blended course (a portion of the classes will be held online via Zoom) -A laptop computer is required in all classes (online or face-to-face)																	
備考																			
リンク																			
	URL																		
担当教員の 実務経験の 有無		○																	

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)		授業形式								
K022A202		海外フィールドワーク (Oversease fieldwork)					学部共通科目 学部共通科目		対面								
必修選択		単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語	担当形態								
選択必修		2	3,4	経済	前期	月5	日本語	英語、英語以外の外国語	単独								
担当教員	氏名 木村 雄一																
	E-mail ykimura@oita-u.ac.jp 内線 7689 (木村)																
授業の概要	台湾、東アジアの女性の地位、少子化問題 台湾では性別規範の近代化が東アジアで突出して進み、男女平等指数は世界で20位以内に入る。制度や規範の変化が台湾で進み、日本や韓国では変化が比較的遅いという差の要因は何に求められるだろうか。台湾の政治制度では、民主化直後の 90年代から強制力のある gender quota が採用され高い女性議員比率を誇る。女性議員の当選には NP0女性団体の多さ、活発な活動が寄与しているという。女性議員はどのような立法を通じて労働市場や家庭での女性の役割に変化をもたらしたのか。さらに議会の qota や女性団体の活発さをもたらしたものは何か。つまり日本や韓国で同等が起きない要因は何か？ 制度変化やその効果も、意識の違いが説明するのだろうか。では意識の差はどこから生まれるか？台湾および世界各国を見て要因と結果を探究する。夏季休業中に台湾の学生と報告の交換を行う。																
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)		1	2	3	4	5	6	7		
目標1	東アジア・世界各国で女性活躍・WLB、少子化の状況はどうなっているか事実認識を確認すること								○								
目標2	女性の政治進出が、女性の役割・地位に関わる立法に繋がっているのか理解する								○		○						
目標3	政治制度の差が、ジェンダーに関わるどのような立法や制度につながっているか理解する								○		○						
目標4	東アジア・世界各国の差がなぜ生じたか、要因を説明できること								○		○						
目標5	台湾の学生と 英語で報告・質疑の交換をできること								○	○							
目標6																	
目標7																	
目標8																	
目標9																	
目標10																	
各DPへの関連度 (計10)								4	2	4							
授業の内容																	
1	ガイダンス Overseas Fieldwork (4/14)																
2	研究の問題設定、グループ設定 (4/21)																
3	研究の論点とリーディングリスト設定 (4/28)																
4	研究の論点とリーディングリスト設定 (5/12)																
5	情報収集と論点の追求 (5/19)																
6	情報収集と論点の追求 (5/26)																
7	情報収集と論点の追求 (6/2)																
8	報告用スライド準備 (6/9)																
9	報告用スライド準備 (6/16)																
10	スライドを使い 日本語で中間報告 (6/23)																
11	スライド改訂 および報告練習 (6/30)																
12	スライド改訂 および報告練習 (7/7)																
13	スライド改訂 および報告練習 (7/14)																
14	英語で 報告練習 およびスライド完成 (7/28)																
15	英語で 報告練習 およびスライド完成 (8/4)																
ラーニング チェック シート グループ	A:知識の定着・確認		1人ずつないし数人で研究し報告を準備し、台湾北部の国立清華大学 (National Tsing Hua University) の学生たちと報告の交換をする。言語は英語、渡航は 8月中旬、1週間以内程度を予定している。					エ ス 夫 の 他 の									
	B:意見の表現・交換	○															
	C:応用志向	○															
	D:知識の活用・創造	○															
授業時間外 学修の内容 と想定時間	準備学修	論文執筆や発表準備のための時間外活動が必要 (40h)															
	事後学修	渡航予算が久保奨学金から支出されるため、出資者であるTokyo Electron の久保さんへ報告書を提出する (5h)															
	想定時間合計	45															
教科書	・女性社会進出 (FLP) に加え、それを含むより大きな論題として少子化問題がある。女性社会進出の進んだ台湾でも出生率は韓国と大差なく、日本よりもさらに半分程度の非常に低い水準だ。なぜか？ ・若年層の経済状況とWLBも、FLP、出生率問題の1要素となる重要問題だ。																
参考書	FLP、若年のWLBと所得、そして少子化と、およそ3種類ほどの問題が考えられる。それらに関わる論点を各自選び、探究と報告を行ってもらう。																
成績評価の方法及び評価割合	評価方法						割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	論点設定、情報収集、報告準備						100%	○	○	○							
注意事項	渡航費用は久保奨学金から出資される。8月中旬に合わせて予定を調整すること。																
備考																	
リンク																	
	URL																

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)		授業形式								
		IBPプレゼンテーションセミナー (Presentation Seminar for IBP)					学部共通科目 学部共通科目		対面								
必修選択		単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語	担当形態								
選択必修		4	3	経済	後期	月5,月6	日本語	英語	複数(共同)								
担当教員	氏名 柴田 茂紀・デイ スティーブン・海 大汎・矢野 英子 ・小宮山 知成・安永 雅 E-mail sshiba@oita-u.ac.jp 内線 7715																
授業の概要	1年間の協定校での留学による学習成果をもとにして、国際公務員、外国企業勤務、海外ボランティアなど国際社会での活躍を志望する人材アドミッションポリシーとして「国際化、情報化などに対応できる能力」をさらに一層深化させることを目的とします。これにより、国際的に活躍できる企業人・公務員の育成を進めるものです。																
具体的な到達目標								DP等の対応(別表参照)			1	2	3	4	5	6	7
目標1	留学によって修得したコミュニケーション能力の伸長							○	○					○			
目標2	留学を通じて広めた社会経済文化に関する知見を踏まえ、演習や卒業論文の基礎として整理します。							○	○		○	○					
目標3	論文作成技法、プレゼンテーション能力の伸長							○	○					○			
目標4																	
目標5																	
目標6																	
目標7																	
目標8																	
目標9																	
目標10																	
各DPへの関連度(計10)								3	3		1	1	2				
授業の内容																	
1	ガイダンス																
2	第1班テーマ報告																
3	第2班テーマ報告																
4	第3班テーマ報告																
5	第4班テーマ報告																
6	テーマについての相互評価グループワーク																
7	第1班中間報告																
8	第2班中間報告																
9	第3班中間報告																
10	第4班中間報告																
11	成果報告についての相互評価グループワーク																
12	第1班最終報告																
13	第2班最終報告																
14	第3班最終報告																
15	第4班最終報告																
ニア ンク グ テ ィ ブ ラ ー	A:知識の定着・確認	○	・中間発表、留学に際して、ないしは留学を契機に学修した内容を個々に整理し ・たうえて、複数回にわたり発表し、教室全体で協働学習します					エ そ 夫 の 他 の									
	B:意見の表現・交換	○															
	C:応用志向	○															
	D:知識の活用・創造	○	・最終発表として、公開成果報告として、これら体験活動について、授 業の最後にプレゼンテーションを行います。														
授業時間外 学修の内容 と想定時間	準備学修	各回の報告に向けて発表原稿・スライドを作成し、作成したスライドファイルを中間報告の事前を送付する(25h)															
	事後学修	授業に際して指摘を受けた部分について発表原稿・スライドを修正する(20h)															
	想定時間合計	45															
教科書	授業を通じて紹介する。																
参考書	授業を通じて紹介する。																
成績 評価 の 方 法 及 び 評 価 割 合	評価方法		割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10				
	テーマ及び中間報告		40%	○	○												
	最終成果報告プレゼンテーション		60%	○	○												
注意事項	I B Pによって交流協定校への留学を行った学生が対象です。I B P教育プログラム修了要件です。																
備考	I B Pコース1年生は、事前準備として報告会への参加が義務づけられます。																
リンク																	
	URL																

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)		授業形式								
K023A203		インターンシップ (Internship)					学部共通科目 学部共通科目		対面								
必修選択		単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語	担当形態								
選択必修		2	3,4	経	前期	他	日本語		単独								
担当教員	氏名 小笠原悟																
	E-mail ogasawara-satoru@oita-u.ac.jp 内線 7713																
授業の概要	インターンシップでは、企業や地方公共団体等における就業体験を通して、高い職業意識と職業選択に必要な能力を養うとともに、学習意欲の向上を図り、学問研究への問題意識を醸成することを目的としています。この目的を達成するために、事前研修や事後報告会と合わせて専門教育の一環として単位を認定するものです。																
具体的な到達目標								DP等の対応(別表参照)		1	2	3	4	5	6	7	
目標1	就業体験を通して、職業意識や職業選択に必要な能力を養うことができる											○					
目標2	学習意欲の向上を図り、学問研究への問題意識を醸成する											○					
目標3																	
目標4																	
目標5																	
目標6																	
目標7																	
目標8																	
目標9																	
目標10																	
各DPへの関連度(計10)												10					
授業の内容																	
1	事前研修																
2	インターンシップ先での実習及び実習日報の作成1																
3	インターンシップ先での実習及び実習日報の作成2																
4	インターンシップ先での実習及び実習日報の作成3																
5	インターンシップ先での実習及び実習日報の作成4																
6	インターンシップ先での実習及び実習日報の作成5																
7	インターンシップ先での実習及び実習日報の作成6																
8	インターンシップ先での実習及び実習日報の作成7																
9	インターンシップ先での実習及び実習日報の作成8																
10	インターンシップ先での実習及び実習日報の作成9																
11	インターンシップ先での実習及び実習日報の作成10																
12	インターンシップ先での実習及び実習日報の作成11																
13	インターンシップ先での実習及び実習日報の作成12																
14	インターンシップ先での実習及び実習日報の作成13																
15	事後報告会																
ラーニングエッセンス	A:知識の定着・確認		事前研修や事後報告会を実施し、意欲を高めます。					エ	そ	夫	の	他	の				
	B:意見の表現・交換																○
	C:応用志向																○
	D:知識の活用・創造																○
授業時間外学修の内容と想定時間	準備学修		就職支援室による就職ガイダンスの受講(22h)														
	事後学修		実習報告書の作成、就職支援室による就職ガイダンスの受講(23h)														
	想定時間合計		45														
教科書		教科書は指定しません。															
参考書																	
成績評価の方法及び評価割合	評価方法						割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	実習日報						20%	○									
	実習報告書						20%	○									
	企業等による評価表						20%	○									
	事前研修会						20%	○									
	事後報告会						20%	○									
注意事項		単位の認定にあたっては、事前研修(7月開催予定)と事後報告会(10月開催予定)への参加が必要です。認定単位数は「5 日以上 10 日未満の実習＝1 単位」「10日以上の実習＝2 単位」を基準として判断します。上記シラバスは、2単位の場合を想定したものです。															
備考		事前研修と事後報告会の日程や内容は「就職の手引」や就職支援室で確認して下さい。履修登録の要否や登録方法など、本科目に関する、より詳しい内容を知りたいときは就職支援室へ問い合わせてください。															
リンク																	
		URL															
担当教員の実務経験の有無		○															
教員の実務経験		エコノミスト、為替ストラテジスト															
教員以外で指導に関わる実務経験者の有無		○															
教員以外の指導に関わる実務経験者		人事担当者、営業担当者、企画担当者、開発担当者。															
実務経験をいかした教育内容		企業等でのインターンシップを通じて、就業意識を高めるとともに適切な自己認識や社会人として必要なマナー、責任感を習得する。															

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)			授業形式							
K022A206		資本市場の役割と証券投資 (Role of the Capital Markets and the Securities Investment)					学部共通科目 学部共通科目			対面							
必修選択		単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語		その他に使用する言語		担当形態						
選択必修		2	3,4	経	後期	水4	日本語				オムニバス						
担当教員	氏名 金 珍奎 他																
	E-mail kim@oita-u.ac.jp 内線																
授業の概要	直接金融への期待が高まる現在、資本市場に求められる役割とは何か、激変する日本の資本市場の全容とリスク&リターンの考え方、株式や債券・投資信託など証券投資に必要な基本的知識をわかりやすく、実務の観点から解説します。																
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)			1	2	3	4	5	6	7	
目標1	社会人になってからも実践的に役立つ金融知識の習得								○	○							
目標2																	
目標3																	
目標4																	
目標5																	
目標6																	
目標7																	
目標8																	
目標9																	
目標10																	
各DPへの関連度 (計10)							5	5									
授業の内容																	
1	ガイダンス・経済情報の捉え方																
2	ライフプランニングと資産形成																
3	金融資本市場の役割とその変化																
4	間接金融の役割 預金とローン																
5	債券市場の役割と投資の考え方																
6	株式市場の役割と投資の考え方																
7	外国為替相場とその変動要因																
8	投資信託の役割とその仕組み																
9	リスク・リターンとポートフォリオ分析																
10	つみたて投資の特徴と活用方法																
11	資産形成制度について																
12	産業展望と投資の考え方																
13	プライベートマーケットにおけるエクイティ投資																
14	企業とESG																
15	グループワーク発表会																
フィードバックシート	A:知識の定着・確認		○		チーム単位の投資活動に関するワークショップを行い、グループ報告をしてもらいます。					エ そ 夫 の 他 の							
	B:意見の表現・交換		○														
	C:応用志向																
	D:知識の活用・創造																
授業時間外学修の内容と想定時間	準備学修		講義内容に関する予習学習 (20時間)														
	事後学修		講義で出された課題の学習 (25時間)														
	想定時間合計																
教科書		資料は毎回、配付予定です。															
参考書		講義で紹介します。															
成績評価の方法及び評価割合	評価方法						割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	授業回ごとのレポート						60%	○									
	期末テスト						40%	○									
注意事項		毎回出席をとります。 経済学部2024年度以降入学者は、経済学部専門科目としては登録できません。教養教育科目として登録してください。															
備考		大分銀行大分支店（野村証券）の寄附講義として、同社の支援、協力により開講します。講師は、野村証券株式会社をはじめとする野村グループの管理職や専門職です。															
リンク																	
		URL															

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)		授業形式									
		CSV経営実践論 (Company and Business)					学部共通科目 学部共通科目		対面									
必修選択		単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語	担当形態									
選択		2	3, 4	経済学部	後学期	金4, 金5	日本語		複数(共同)									
担当教員	氏名 松谷 葉子																	
	E-mail matsutani@oita-u.ac.jp 内線																	
授業の概要	社会課題を解決するために、CSV経営（Creating Shared Value、共有価値の創造）を実践してきた芙蓉リースグループのリアルな活動から、世界規模で深刻化する社会課題への理解を深め、ビジネスによる具体的な課題解決の取り組みについて学びます。授業では講義による知識習得、問題提起と、グループワークによるアクティブラーニングを中心に進めます。CSV経営の実践を学ぶ過程で、就職を控えた学生が社会人として求められるリーダーシップやコミュニケーション力などのスキルを高めることにも配慮します。																	
具体的な到達目標								DP等の対応(別表参照)				1	2	3	4	5	6	7
目標1	1. (現代社会が直面する重大な社会課題について理解し、説明できる。							○			○		○					
目標2	2. (社会課題を解決する取り組みとしてのCSVに関する基本的な知識や具体的な事例を理解し、説明できる。							○				○						
目標3	3. (CSV経営を実践するためのスキルやリーダーシップを理解し、主体的に行動できる。								○	○								
目標4																		
目標5																		
目標6																		
目標7																		
目標8																		
目標9																		
目標10																		
各DPへの関連度 (計10)								1	2	2	2	2	1					
授業の内容																		
1	オリエンテーション、基調講義																	
2	(テーマ1) 気候変動問題が企業経営に与える影響																	
3	テーマに基づくグループワーク																	
4	(テーマ2) 再生可能エネルギー」と地域経済																	
5	テーマに基づくグループワーク																	
6	(テーマ3) 地域経済と「モビリティイノベーション」																	
7	テーマに基づくグループワーク																	
8	中間まとめ、ふりかえり																	
9	CSVにおけるリーダーシップとビジネススキル																	
10	(テーマ4) 地域生活を支える「医療・介護」																	
11	テーマに基づくグループワーク																	
12	(テーマ5) 地域における「循環型経済」の進展																	
13	テーマに基づくグループワーク																	
14	特別講義																	
15	学生による発表会、講評																	
エッセンス ポイント	A:知識の定着・確認			グループワークや受講者によるプレゼンを取り入れたり、成果物としてのレポートや授業毎にコメントシートの提出を求めます。提出物を活用して質問や感想に答えたり情報を共有することで、他の学生から学ぶ機会を設け、知識の深化を進めます。					エ ス の 他 の	毎回の授業でコメントシートの作成、提出を求めます。コメントシートを通じて、授業の中で対応できなかった質問や感想に答え、他の学生から学ぶ機会を設けます。								
	B:意見の表現・交換		○															
	C:応用志向																	
	D:知識の活用・創造		○															
授業時間外学習の内容と想定時間		準備学修		指定した資料の読了または課題の作成（事前30時間）。														
		事後学修		講義内で得た気づきの文書化、関心を持ったテーマに関する資料の読了など（事後15時間）。														
		想定時間合計		45														
教科書		教科書は指定しません。 授業はスライドを使って進めます。																
参考書		都度指定、紹介します。																
成績評価の方法及び評価割合	評価方法							割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	グループワークディスカッション貢献度							50%	○	○								
	レポート							50%		○	○							
※レポート課題内容に加え、グループワークへの参加姿勢や、発言・発表の内容などを評価する。																		
注意事項		講義を聴くだけではなく、自身の意見を持ったディスカッションができることを求めます。																
備考		毎回、4限5限と2コマ連続で、各テーマに則った講義とディスカッションをミックスした内容です。授業の進行状況等によって、講義内容の順番が変更となる場合があります。 具体的な開講日程は9月に実施予定の授業ガイダンスなどで周知します。																
リンク																		
		URL																
担当教員の実務経験の有無		○																
教員の实務経験		・ 経営コンサルタント ・ 事業経営																
教員以外で指導に関わる実務経験者の有無		○																
教員以外の指導に関わる実務経験者		芙蓉総合リース株式会社の社員																
実務経験をいかした教育内容		ビジネスのリアルな動向に金融サービスの観点を加えて、CSV経営の実践を多面的に解説します。																